

第3学年総合的な学習の時間 学習指導案

北広島町立芸北中学校
授業者 T1
T2

- 1 日時 平成 年 月 日 () 5校時
- 2 場所 第3学年教室
- 3 学年 第3学年 (男子 名, 女子 名, 計 名)
- 4 単元名 芸北の宝で地域おこし 「芸北マルシェ」
- 5 単元について

(1) 単元観

本単元は、第1学年「芸北の宝で地域おこし『目指せ！ジュニアトレッキングガイド』」、第1、2学年「芸北の宝で地域おこし『茅プロジェクト』」の学習上に設定された単元である。「芸北マルシェ」とは、「芸北の商品を売っている市場」という意味で、芸北にある様々な物を使って商品を開発し、道の駅で実際に販売することで、芸北をアピールしていく取組である。生徒は2年時に行った「茅プロジェクト」で、「広報→茅収集→茅の販売→利益の還元」という「茅プロジェクトのサイクル」に沿って活動し、利益の還元によって中学校に冷水器を取り付ける経験をしている。今回は、個性を活かした学校を支援する補助金から融資を受けて、商品開発や商品作りの取組を始めた。

「芸北マルシェ」の取組は、四つの段階から成っている。第1段階は、融資を受けての商品開発である。生徒は四つの会社を作り、それぞれ芸北をアピールできる商品を考える。融資担当の教頭に企画書を提出して、融資してもらえるように商品の説明を行い、融資の許可を得たら、材料を集め試作品作りに入っていく。

第2段階は、モニタリング（市場調査）である。試作品が出来上がると、モニタリングを行い、実際売れるものなのか確かめる判断材料にする。モニタリングは、2回繰り返す。第1回目は中学校の先生達が対象である。学校内に商品紹介とともに試作品を展示し、「一番買いたいと思う商品」「買いたくない商品」とその理由を聞くアンケートを行う。アンケート結果をもとに、試作品の改良を行って、第2回目のモニタリングにつないでいく。第2回目は、道の駅を訪れたお客さんが対象である。各会社のブースに試作品を飾り、歩いているお客さん達に声をかけ、協力を仰ぐ。商品について説明し、「どの商品を一番買いたいか」「買いたくないか」理由とともに答えてもらう。2回にわたるモニタリングの結果をもとに、改善を行って本格的な商品作りに入っていく。

第3段階は、商品販売である。道の駅での販売を2回にわたって行う。販売を前に、進路学習で訪問する大学の協力を得て、大学生にお客さんになってもらって模擬販売を行い、商品や接客、店のレイアウトなどについてアドバイスをもらう。アドバイスをもとに改善を行い、販売の本番を迎える。商品の展示の仕方、黒字を目指した価格設定、お客さんを引きつける接客など多方面から考えてきたことの評価が、商品が売れるかどうかという形で、現実として生徒に突き付けられることになる。第1回目の販売の課題を整理し、改善をして第2回目の販売を行っていく。

第4段階は、まとめである。「芸北マルシェ」の取組を振り返り、成果や課題をまとめるとともに、自分達に付いた力を確認していく。「芸北の宝で地域おこし」は、芸北中学校1年から3年まで取組が繋がっている。自分達の活動を振り返るとともに、後輩たちに自分達の取組を伝えてい

くために、まとめの発表会を行う。会社ごとに取り組んできたこと、課題をどう改善していったか、そのことを通して自分達にどういう力が付いたのか、説明していく。

以上のような繰り返しの活動が、地域活性化に関わろうとする意識を高めていくとともに、「課題解決力」や「協働する力」の育成につながっていくと考える。また、これらの力が身についていくことが「自己回復力」の育成につながり、中学校卒業後もたくましく前に進んでいくことができる力につながっていくはずである。

(2) 生徒観

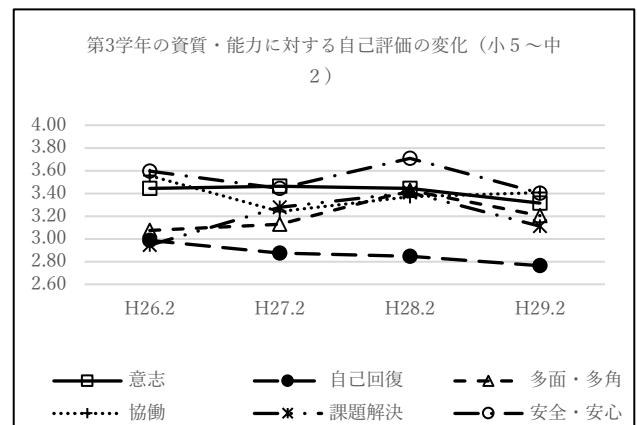
平成 30 年度「全国学力・学習状況調査」質問紙において、地域に関わる設問及びその肯定的な回答率は右の通りであった。

地域に関わる質問事項では、肯定的な回答の数値が高く、地域との強いつながりが分かる。一昨年度まで「挑戦科」を実施し、地域をフィールドとしたダイナミックな体験活動に取り組み、昨年度はその学びを生かしながら、「茅プロジェクト」に取り組んできた。今年度も「地域の宝で地域おこし『芸北マルシェ』』というテーマに、積極的に取り組んでいこうとする姿勢が見られる。

しかし、「挑戦科」でも取り組んできた六つの資質・能力については課題もある。昨年度行った「挑戦科」資質・能力アンケート（4段階尺度法）において、「協働する力」の自己評価は上昇しているものの、それ以外の資質・能力の自己評価が下がっている。特に「課題解決力」の下がり方が大きい。昨年度は1年生とともに会社を作り、そのリーダーとして課題を解決しながら皆を引っ張っていくことをねらいとして活動していったが、その過程で色々な妨げが立ち

はだかり、試行錯誤してきたことが原因と考えられる。しかし、メンバーを引っ張っていった経験は、今年度の体育祭をはじめとした行事の運営に活かされている。今年度は、昨年度以上の妨げが生徒の前に立ちのぼるはずだが、会社のメンバーと協働しながら様々な工夫をして、乗り切っていく力「課題解決力」がついていくように、取組を進めたい。

質問事項	肯定	否定
自分が住んでいる地域の行事に参加しています。	94.4%	5.6%
地域や社会に起こっていることに関心があります。	77.8%	22.2%
地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがあります。	83.4%	16.6%



(3) 指導観

本単元の指導にあたっては、本校の挑戦科の授業で実践してきた「学びのスタイル」である「繰り返しの体験」を重視して進めていく。2回のモニタリング、模擬販売と2回の商品販売と繰り返し、その都度課題を整理し、解決のために新たなことにチャレンジすることで、「課題解決力」を確実に身につけさせたい。

また、本単元で指導者は、妨げとなる二つの場を設定している。一つは、融資を受けて商品の開発をすることである。企画書を提出し、納得してもらってやっと融資を受けることができるというシステムも妨げだが、融資を受けた以上、それを元手に売れる商品を開発し、販売して利益をあげ

て返済しなければならないことも大きな妨げとなる。材料費にいくらかけ、価格をいくらに設定して最低いくつ売れば採算が取れるのか。妨げを乗り越えるために、会社のメンバーで知恵を出し合い、売れる商品、接客、店のレイアウトを工夫することを繰り返すことで、ここでも課題を解決する力を身に付けていけるはずである。

もう一つは、販売の場所を道の駅に設定していることである。同じ町内であるが、中学校からはかなり離れた場所であり、お客さんに知り合いはほとんどいない。買いたくなければ買わない、時間がなければ声をかけられても立ち止まってもらえないであろう。そんなお客さんに店に寄ってもらうには、工夫を重ねるしかない。以上のように、より厳しい妨げが生まれる場を設定し、それを力を合わせて乗り越えていくことで、課題を解決していく力を付けさせていきたい。

5 単元の概要

(1) 単元の目標

商品の開発や販売の成功に向けて取組を繰り返すことを通して、仲間と協働して主体的に課題解決に取り組む姿勢を身に付け、芸北の地域活性化にもつなげていこうとする気持ちを育てる。

(2) 単元で身につけさせたい資質・能力

【知識及び技能】

ア 自分や他の人の安全や安心に気を付けて行動する。(安全・安心をつくる力)

【思考力, 判断力, 表現力等】

イ 課題に対する情報を集め、整理・分析して解決する。(課題解決力)

ウ 他者との相互交流を通して、新たな意見や考えを持つ。(多面的・多角的な見方・考え方)

【学びに向かう力, 人間性等】

エ 目標を明確にして、課題解決に向けて主体的に行動する。(意志力)

オ 自他の考えの良さを生かして、協働的に課題を解決する。(協働する力)

カ 課題解決に向けてストレスをうまく軽減しながら行動する。(自己回復力)

(3) 単元の評価規準

知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
①自分や他の人の安全・安心に気を付けて作業する技能が身に付いている。 ア (安全・安心をつくる力)	①課題について情報を集め、整理・分析して解決に結び付けている。 イ (課題解決力) ②他者との交流を通して、新たな意見や考えを見出している。 ウ (多面的・多角的な見方・考え方)	①明確な目標を持ち、課題の解決に向けて、主体的に行動している。エ (意志力) ②自分や他の人の考えの良さを生かして、協働的に課題を解決している。オ (協働する力) ③ストレスをうまく軽減しながら行動している。 カ (自己回復力)

(4) 単元計画 (全 48 時)

節	学習活動	時数	指導上の留意点
1	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">課題設定</div> <ul style="list-style-type: none"> ・道の駅で販売するための芸北をアピールできる商品を考える。 ・茅プロ銀行からの融資が受けられるように企画書を作り交渉する。 	5	<ul style="list-style-type: none"> ・各会社で、道の駅で販売する商品を考えさせる。芸北をアピールすることを意識させる。 ・融資の仕組みについて理解させる。 ・融資が受けられるようなセールスポイントを考えさせ、アピールさせる。
2	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">情報収集</div> <ul style="list-style-type: none"> ・試作品を作り、2回のモニタリングを行う。 	8	<ul style="list-style-type: none"> ・先生達を対象にした1回目のモニタリングの課題を改善させて、道の駅での2回目のモニタリングを実施する。
3	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">整理・分析</div> <ul style="list-style-type: none"> ・道の駅で販売する商品を作る。 	6	<ul style="list-style-type: none"> ・モニタリングの課題を整理させ、販売する商品作りに入らせる。
4	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">情報収集</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-left: 20px;">整理・分析</div> <ul style="list-style-type: none"> ・大学訪問で模擬販売を行う。 	6	<ul style="list-style-type: none"> ・接客や店のレイアウトも考えさせて実施する。 ・実際の販売に生かしていけるように、大学生のアドバイスを整理させる。
5	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">情報収集</div> <ul style="list-style-type: none"> ・道の駅で第1回目の商品販売を行う。 	6	<ul style="list-style-type: none"> ・接客や店のレイアウトも意識させて実施する。
6	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">整理・分析</div> <ul style="list-style-type: none"> ・1回目の商品販売を振り返り、2回目の販売につなぐ。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・商品、接客、店のレイアウトの課題を整理させ、2回目の販売につなげさせる。
7	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">情報収集</div> <ul style="list-style-type: none"> ・道の駅で第2回目の商品販売を行う。 	6	<ul style="list-style-type: none"> ・1回目の販売での課題改善を意識させて実施する。
9	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">まとめ・表現</div> <ul style="list-style-type: none"> ・「芸北マルシェ」のまとめを行い、発表する。 	7 本時 5/7	<ul style="list-style-type: none"> ・「芸北マルシェ」全体を振り返り、まとめの発表会を行い、自分達についた力を確認させる。

6 本時について

(1) 本時の目標

まとめの発表会に向けてリハーサルを行い、自分達が伝えたいことを確認合って、それを一つの言葉にまとめ発表の内容に加える。

(2) 本時の評価規準

- ・課題について情報を集め、整理・分析して解決に結びつけている。

(思考、判断力、表現力等①)

(3) 準備物 ワークシート, パソコン, TV, 短冊, ホワイトボード

(4) 本時の展開

学習活動	◇指導上の留意点 ◆「努力を要する」と判断した生徒への指導の手立て	評価規準【観点】 (方法)
<p>1 本時のねらいを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>自分達が伝えたいことを確認し合い, 一つの言葉にまとめる。</p> </div>		
<p>2 最後の会社の発表を行う。 (他の会社については, 前の時間に発表を終えている。)</p> <p>3 ○発表を聞いて印象に残った言葉を短冊に書き, 模造紙に貼る。</p> <p>○発表者は自己評価を行う。</p> <p>4 会社ごとに, 自分達が発表会で最も伝えたいことを話し合い, 一つの言葉にまとめる。</p> <p>5 会社ごとに, まとめた言葉とその言葉にした理由を発表する。</p>	<p>◇印象に残った言葉をメモしながら聞かせる。</p> <p>◇その会社の「頑張り」や「どう乗り越えたか」という視点で書かせ, 同じような言葉を分類して晴らせる。 ◆必要に応じてアドバイスをを行う。</p> <p>◇自己評価カードに書かせる。</p> <p>◇他の会社の人が書いた一言を参考にしながら, 自分達が学んだことを振り返る。 ◇各自の案をワークシート書かせてから, 話し合いに入らせる。</p> <p>◇ホワイトボードに言葉を書いて貼らせる。(この言葉は, 後日発表会の原稿に加えさせる。)</p>	<p>【課題解決力】 意見を出し合い, 整理して一つの言葉にまとめようとしている。 (ワークシート) (行動観察)</p>
<p>6 今日の授業の振り返りをする。</p> <p>7 次時の予定を伝える。</p>	<p>◇ワークシートに書かせ, 何人かに発表させる。</p>	

(5) 板書計画

発表内容について質問を出し合うことで、自分達が伝えたいことを確認し、一つの言葉にまとめよう。

※質問のポイント 「各会社の苦労」「頑張り」「どう乗り越えたのか」

ホワイトマジック

Orange ×
Green

GHK
コーポレーション

Green Nature

伝えたい
言葉

伝えたい
言葉

伝えたい
言葉

伝えたい
言葉